学校関係者評価委員会

令和5年度第2回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：令和6年2月13日（火）18：00～20：00

場所：修成建設専門学校129教室

司会：堤下校長

2. 出席者（順不同、敬称略）

委員

丸山 徹、相賀 勝、藤田 晴樹、市岡 武、大槻 憲章、大和 正、壷山 和憲

（計7名） 田中 文雄（欠席）

学校（オブザーバー）

山下裕貴（理事長）、堤下隆司（校長・ガーデンデザイン学科科長）、見邨佳朗 （副校長・建築 CG デザイン学科科長）、谷川博康（学生相談室室長）、角野峰生（建築科科長）、稲原泰裕（夜間建築学科副科長）、鍵谷啓太（空間デザイン学科科長）、山本順也（住環境リノベーション学科科長）、野瀬孝男（土木工学科・建設エンジニア学科科長）、釜友知與子（専科 2 級建築士科科長）、廣辻雅之（専科 1 級建築士科科長）、塩田久及（事務局長）、亀井哲男（経営戦略室室長）、藤本喜代志（広報部長代理）、（計14名）

（参加者合計21名）

3. 配布資料

1. 令和5年度第2回委員会 議事次第(資料 1－1)
2. 学校関係者評価委員会委員一覧表(資料 1－2)
3. 学校関係者評価委員会報告書（案）(資料 1－3)
4. 卒業生意見交換会 令和 5 年度委員会議事録(資料 1－4)
5. 卒業展 2024 ご案内
6. 建設業界オンライン合同企業説明会 2024
7. RECRUIT INFORMATION2024
8. その他各種案内

4. 議事次第

（1）開会挨拶

委員長（藤田委員） 挨拶

オブザーバー代表（山下理事長） 挨拶

（2）修成教育研究所の成果報告（見邨副校長・教育研究所所長）

・各学科の資格取得結果とトピックスの説明

・二級建築士、一級施工管理技士（土木・建築）の夜間講座案内、BIM、ドローンセミナー等の案内。

（3）卒業生意見交換会の報告

（4）議案

1）学校関係者評価委員会評価報告書について

・各委員より異議無く、提出案通りに評価報告書が承認された。

・承認された報告書は修成建設専門学校 ウェブサイトにて公開する。

2）質疑応答

《資格取得とリカレント教育・リスキリングについて》

【壷山委員】: BIM が主流になる等、時代の変化が速くなり、社員に対してもリスキリング・ブラッシュアップの必要性を認識している。修成ではそのような時代の変化を的確に把握されており高く評価できる。修成にそのような機会を提供してもらえることは企業側としても助かっている。

【市岡委員】: 建設業界は慢性的に人手不足。働き方の多様化、賃金上昇ニーズに対応し、社員教育を実施し改善してきた。修成教育研究所のような学び（リカレント教育・リスキリング等）は最先端の知識・技術を維持する上で重要である。

【藤田委員】: 国土交通省は建築基準適合判定資格者の安定的な確保を図るため一級建築基準適合判定資格者検定と二級建築基準適合判定資格者検定に制度を見直した又一級建築基準適合判定資格者検定は受験要件であった実務経験をなくして登録要件とした、二級建築基準適合判定資格者検定は小規模な建築物を業務範囲とし実務経験は登録要件とした。

確認申請審査用のソフト開発の動きもある。

【大槻委員】: 造園業界も人材不足。最近は、造園系の会議で修成の卒業生に会う機会が増えている印象がある。若手のモチベーションアップに期待したい。

【丸山委員】: 公共の仕事では特定の資格が必要で、その重要性は理解。ただし、企業としては取得後の離職への対応が必要。また、事業が多角化していくにつれ複合的な専門性が必要となり、リスキリングは重要と考えている。

【相賀委員】: 全国的に建築・土木の学生数が減っている。修友会と学校の緊密な協力が不可欠と認識している。

【大和委員】: 教員が学校の価値を支えるので優秀な人材を採用、教員間研修を実施。また、高資格取得率は学校の評価を高める事に直結すると考えるので重要である。

（山下委員から修成の新たな取り組み『衣食住専門学校コンソーシアム』、『SDGs 物語〔RPG 風ボードゲーム〕』等について紹介がなされた。）

（参加各委員から以下のような意見交換があった。）

・今後、造園分野には将来性がある。自治体の大規模な地域計画には、ランドスケープや街づくりの専門家が必要（入札条件）。

・海外では、街づくりのチームのトップは、ランドスケープの専門家であり、海外で日本庭園を造っているところも多い。

・資格取得のためのテキスト代は全額会社が負担している。資格取得後の転職で最も多いのは、役所に転職するケース。そのようなリスクはあるが、支援する企業姿勢を評価してくれる社員もいる。

・役所側の問題ではあるが、2，3 年で異動になるので、教育がなかなかできない。教育できる人も不足しているのが現状。

・教員の研修方法として、互いの授業見学を年 3 回行っている。評価アンケートをもとに教員が自己評価と改善レポート提出。新任教員にはベテラン教員がメンターにつく。

・インターンシップについて、高校生の受け入れなども行っている。修成ではどうか？　⇒コロナ前はほとんどの学生が参加していたが、今年で 6 割ほどの参加率である。インターンシップは有益な企画であるので、これから増やしていきたい。

（堤下校長より卒業展の案内および締めくくりの挨拶）

閉会

（記録文責：廣辻雅之、角野峰生）